

1. 教育の責任

本学部では、社会で活躍できる管理栄養士の輩出を目標としています。このため、学生が栄養学とその派生・関連科目に興味を持ち、その学修の成果を証する管理栄養士国家試験に合格できるよう支援することが求められています。

2. 教育の理念

「地域社会・国際社会に貢献する」という教育目的をふまえ、学生が人間性豊かで、かつ、健康・医療・福祉における対象者の栄養管理に必要な知識・技術をもち人間性豊かな職業人となれるよう、これらを伝えていきます。

3. 教育の方法

(教員としての目標)

- ・学生には、必修科目である病院での臨地校外実習や就職活動も見据えて接しています。
- ・臨床栄養学Ⅰ～Ⅳでは、栄養管理の必要性があり、管理栄養士が関わる各病態について講義をします。診療報酬や栄養基準など、医学・医療の日進月歩により各病態のガイドラインが改定されていくため、日々情報収集と研鑽が必要です。

(学生に求めること、学生に対する期待)

- ・臨床栄養学は、主に食品学、解剖生理学、生化学、病理学、基礎栄養学、応用栄養学などの基礎科目で学ぶ知識の上に成り立つものです。これらの科目の知識をまずは定着させてこの科目に臨むとよく理解できます。
- ・病院での臨地校外実習を控えた講義科目である臨床栄養学Ⅰ～Ⅳや総合演習Ⅲなどの授業を通して、実習開始までに知識や技術だけではなく、医療スタッフとしての心構え、考え方などについて成長がみられるようになることを期待します。

(教育実践)

- ・講義では、教科書の内容はもとより、視覚的に捉えた方が分かりやすい内容については、補足資料を使用します。
- ・授業で扱った内容に関する復習プリントをWEBの学修サポートシステムに配布し、学生自らが何度でもダウンロードして授業の復習を行い、また、知識の定着度を確認できるようにしています。また、学修が進むように2回に分けて試験を実施しています。1回目の試験は採点后返却し、基準点に達しない場合は間違った問題について理解が深まるように課題に取り組んでもらっています。
- ・管理栄養士特論では、ゲストスピーカーの話を聴く前と後の理解度の差が分かるよう、内省ができるようワークシートに取り組みます。

4. 教育の成果

卒業研究では、2025年度は、2024年度の結果をもとに、インスリン療法が不可欠な1型糖尿病を持つ人のための夜間低血糖を回避できるような夜食の探索をしました。また、学生が専門雑誌「糖尿病ケア+」のレシピ企画を担当しました。2023・2024年度は、1型糖尿病患者会の教育キャンプなどに積極的に参加し、患者さんや家族へのサポート、他の医療職種との連携に努めながら、患者さんの協力を得て調査研究（2023年度は食器の違いが料理のボリューム認識に与える影響についての調査、2024年度は夜間血糖管理のための夜食に関するRCT）を実施しました。

5. 改善への努力と今後の目標

- ・主に担当する臨床栄養学Ⅰ～Ⅳについては、各種疾患の診療ガイドラインの改定が相次いでおり、2024年度は診療報酬・介護報酬同時改定の年でもあるため、十分に情報収集を行い授業内容に還元していきます。
- ・臨地校外実習の準備においては、学生の文章力や社会人力が向上するように教材・課題を通して働き掛けていきます。
- ・各授業において管理栄養士として必要な知識は際限なくありますが、授業時間が限られる中で学生が他の科目で修得した知識をもとに理解しやすいスピードでできるだけ多くの情報を伝えるためには、配布資料や説明の順番などまだまだ工夫の余地があります。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：健康栄養学部 名前：小松 祥子 作成日：2026年3月5日

【添付資料】

